

ワケ カタチには理由がある(13)

～スーパーマリン Type300 戦闘機



〔前作 Type224 試作戦闘機と↓〕



〔RAF 博物館にあるスピットファイアの主翼付根下面↓(撮影筆者)〕



本機は、1936年に製作された、英国スーパーマリン社の戦闘機です。形からわかるように、スピットファイア戦闘機のプロトタイプです。前回(12)で説明したように、前作 Type224 試作戦闘機で失敗したレジナルド・ミッチェルが楕円翼を使って設計を一新した美しい戦闘機です。1938年に正式採用されたスピットファイアは、ドイツ空軍から英国を守った1940年の「バトルオブブリテン」において奮戦し、救国の戦闘機となりました。さて、ミッチェルは前作で採用し、上手くいかなかった逆ガル形状を、この機体では目立たない部位に使っています。それは主翼の胴体付根部分で、主翼後縁部分は一度、下方に下げられて、翼端に向けて再び持ち上がっています。実機写真も掲載しますが、スプリットフラップが主翼形状に沿って曲がっていることがわかります。スピットファイアは特徴的な楕円翼ばかりに目が行ってしまいがちですが、こういった繊細な形状が同機の美しさを形作っています。

【模型について】

英国のエアフィックス(Airfix)製 1/72 の Mk.1 をベースに、同国のエアロクラブ(Aeroclub)のプロトタイプ・コンバージョンパーツを使って制作しています。量産型との違いは、丸みを帯びる機首上面、穴が並ぶだけの排気管、パネルラインの無い主翼、ラジエータ前端形状、脚カバーなどです。

(中川裕幸 2021年4月)